



ひかりのこ

2021年度 **4月号**

日本キリスト教団
名古屋新生教会 教会学校だより
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820
 HP: <http://nagoya-shinsei.church/> (新しくなりました!)

2020年度は新型コロナの影響による厳しい一年間でした。2021年度、新たな年度が始まり、みなさんは無事に1つずつ進級し、新たな学年になりました。小学校、中学校、高校、大学へと進んだお友だちもいますね。春は新たな出会いのときでもあります。新たな気持ちで、神さまとの出会いを大切にしましょう。

2021年度の教会学校

教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00~ こどもれいはい (幼児~小4) 10:00~

分級の時間はプログラムを用意する週もありますが、「プレイ・タイム」として、出席したみなさんによって自由に過ごす時間を設けます。「プレイ」…遊びとしての play、お互いに思っていることや悩み、課題を分かち合って祈る pray、そんな時間になればと考えています。

礼拝堂等の換気や消毒には十分配慮していますが、マスク着用や手指消毒、間隔を空けての着席等、各自の感染予防にご協力をお願いします。

今月の礼拝 単元11: イエスの復活

月日	週 題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00 ~ 9:30	分級 I (小1~小4) 分級 II (小5~中高生) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小4) 10:00 ~ 10:20
4月4日 イースター	復活の朝	ルカ福音書 24:1-12	武岡 基	たまご探し	武岡路実
4月11日	エマオへの道	ルカ福音書 24:13-35	武岡路実	(I・II合同) 安達いづみ	安達いづみ
4月18日	復活の証人	ルカ福音書 24:36-53	林 小夜子	プレイ・タイム	武岡 基

単元12: 荒野の旅(出エジプト)

4月25日	モーセの誕生	出エジプト 1:1-2:10	安達正樹牧師	プレイ・タイム	安達正樹牧師
-------	--------	-------------------	--------	---------	--------

イースター礼拝 4月4日(日) イエスさまの復活をお祝いしましょう。

教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00~
 「たまご探し」(幼児~大人) 9:35~
 こどもれいはい (幼児~小4) 10:00~



教会学校に通っているみなさんのための催しとします。

今月の聖句 (2020年度教会聖句 教会総会で決まり次第2021年度教会聖句とします)

あなた方には世で苦難がある。
 しかし勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。 (ヨハネ 6:33)

今月のさんびか♪



こどもさんびか 90 (しゅはよみがえられた)

テゼ共同体について、昨年の10月のさんびか 32「すべてのひとよ(ラウダテ オムネス ゲンテス)」でも紹介しました。フランス東部ブルゴーニュ地方の小さな村テゼにあるキリスト教の教派(プロテスタント、カトリック、東方正教会)を超えた祈りの共同体です。改革派の牧師の子としてスイスに生まれたブラザー・ロジェさん(1915-2005)は、キリスト教の人たち同士が争っている姿に心が痛み、教派を超えた和解を生きる共同体を作りたいという希望を持ち、故郷スイスを離れてこの村に移り住み、祈りと労働の生活を始めました。1940年、第二次世界大戦中のことでした。彼はユダヤ人難民を匿い、戦争孤児たちを迎え入れました。1943年に彼は牧師となり、1949年には志を同じくする7人のブラザーたちが加わり、テゼ共同体が正式に発足しました。現在、テゼ共同体ではブラザーたちがキリスト者の和解と一致を目指して活動しています。世界各国から若者を中心に一週間の短期滞在プログラムも設けられています。毎日、朝、昼、夕の3度、和解の教会と呼ばれる礼拝堂に集い、歌と聖書朗読、とりなしの祈り、そして、長い沈黙からなる祈りの時間もたれています。その祈りで歌われる歌はカノン(輪唱)や、短いもので、それらを繰り返して歌うことで祈りへと導く役割を持っています。賛美では伝統的な典礼文(ラテン語)を歌詞としてよく用いています。ラテン語をキリスト者共通の祈りの言葉として考え、いろいろな国の人たちと共に守る礼拝の際にラテン語の歌詞で歌うことも、たいへん意義深いことでしょう。

今月のさんびか 90「しゅはよみがえられた」の作曲者は32「すべてのひとよ」と同じくフランスの音楽家で作曲家のジャック・ベルティエさん(1923-94)です。彼はパリのイグナチオ教会のオルガニストとしても奉仕していました。彼は1975年から、テゼ共同体の礼拝や祈りの集いのために数多くの賛美歌を作り続け、この歌もその一つです。4部のカノン(輪唱)で、4小節ごとに C-G-Am-G のハーモニーが進行します。楽器によるオブリガートも作曲されています。冒頭の3小節でC(ド)から高いC(ド)へと1オクターブ上昇していく1段目と、高い音が続いていく3段目には、「キリストが復活した」という歌詞が付けられ、イースターの喜びが表されています。これに対して、2段目と4段目の「ハレルヤ」を歌う部分は低く書かれ、美しいハーモニーをつくり出しています。1段ごとに輪唱すると美しさがよくわかります。歌い慣れてきたら、ぜひみんなで輪唱してみましょう。



おたんじょうびおめでとう 4月生まれのお友だち

「礼拝」ってなあに？

「礼拝」って何だろう？教会に行ったことのない人、通い始めたばかりの人にとっては大きな疑問ではないでしょうか。教会での礼拝は、一般の日本人が持っている「宗教儀礼としての礼拝」のイメージとはかなり違いがあります。では何が違うのでしょうか。まず、教会での礼拝は、私たちが一方的に神さまを崇め、神さまを賛美する場ではありません。礼拝は神さまの働きかけによって私たちが集められるところから始まります。教会へ行くというのは自分の意思ですが、神さまがいつも呼びかけてくださるのです。これが「前奏」「招詞(招きの言葉)」です。そして、私たちからの感謝の応答が「讃美歌」や「祈り」という形式で行われます。つまり礼拝は、全体が神さまと私たちとの対話によって進められるのです。礼拝の中心になるのが「聖書」の言葉であり、その説き明かしとしての「説教」「お話」です。「説教」「お話」は神さまからの言葉です。語る人を神さまが用いて、その人を通して神さまが語っておられるのです。ですから、語る人が誰であっても、語り方がどんなであっても、それが重要なことではなく、神さまからの言葉として聞くことが大切なのです。礼拝での「献金」は神さまからの恵みに対する感謝の応答です。募金とは趣旨が異なります。礼拝の最後には、神さまに押し出されて日常生活へと遣わされて出ていく「祝福(祝祷)」「後奏」で終わるのです。